

鹿大のチカラ

KAGOSHIMA UNIVERSITY

フロンティア
サイエンス
研究推進センター

高尾尊身 教授(60)



04年3月、ミニプタを使った内視鏡手術の訓練講座をつくろうと、鹿児島大の外科系医師を中心に、医療メーカーと弁護士らと協力してNPO法人「内視鏡手術普及・啓発の会」を設立。トレーニング方法を確立した。

06年、福岡ソフトバンクホークスの王貞治元監督の胃がん手術でも使われた。

体に手術跡を残さず、患者への負担が少なく、医療技術も格段に進歩した内視鏡手術。外科、内科を問わず、あらゆる治療で用いられる。高尾尊身教授は内視鏡手術の技術を高めようと、5年前からプタを使ったトレーニング講習会を開いている。その技術を学ぼうと全国から医師が集まってくる。

内視鏡手術

内視鏡手術が国内で始まったのは90年ごろとされる。主に胆石の除去手術に使われた。手術跡が残らないことから、特に女性に望まれる手術方法として広まった。今では胃や大腸、肝臓にできた早期がんの治療法としては完全に主流になっていると

講習会に医師300人超



師。内視鏡の操作に不慣れた医師もおり、慣れない操作が命をおびやかす重大ミスにつながることもある。

これまで300人を超える医師が受講した。インターネットで募集をかけると、12人の募集枠は1週間で埋まる人気ぶりだ。「毎日のホームページアクセス数が300、400件あるのも医療関係者が講座募集を気にして見てくれているためではないか」

プタを使う理由は人間と内臓の具合が似ているからだ。消化

器系は約80%、心臓に至っては約95%人間と同じ構造をしているという。加えて臓器の位置も似ている。

講座では命の尊さを教えることも忘れない。講習中に命を落とすプタもいる。自分の手術でプタが死んだという思いを受講生に刻み込ませ、「命」というものをしっかり考えてもらう。

目下の悩みは資金。プタは1頭約20万円。1人5万円の受講料だけでは運営は赤字で寄付頼みだ。器具も足りないため、最近規模を縮小し、1回の講座を9人に絞っている。

内視鏡手術は10年ほど前から飛躍的に進歩しているという。

「この10年の技術の進歩に医師を育てるのが追いつかない状態」と高尾教授。「これからは実際にメスでおなかを切る手術も、内視鏡手術もどちらも使いこなせる医師が必要とされるだろう」

ミニプタを使った内視鏡手術の講習会の様子。高尾教授提供